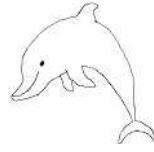


通信小海

イルカ



牧師 水草修治

先日、熊本に講演に出かけたら、思いがけず天草のイルカ・ウォッチングに連れて行ってくれました。熊本港から高速船で四十分ほどで本渡に着き、そこからさらにバスで二十分。イルカを見る舟が出る船着場に到着した。風力発電の白い大きな風車が青空に向けて二つ立っていたが止まっている。

舟の後部デッキには日よけがあり、そこにベンチが八つほど固定されていて、先客たちはすでにオレンジ色のライフジャケットを着けていた。一番最後に乗り込んだ私たちもライフジャケットを着けた。

「餌付けしているんでしょうね。」と話し

今月の御言葉

「地において主をほめたたえよ。海の巨獣よ。すべての淵よ。」詩篇一四八七

ていると、案内の人が「餌付けはしていませんよ。」という。この海域は食料が豊かで、二百ないし三百頭のバンドウイルカの群れが、まったく自然に生息しているそうである。舟は港外に出て、鏡のような海面を走る。十分ほどすると、行く先に六隻ばかりの船がたむろしているのが見えてきた。乗客たちがデッキに立ち上がり、波立つ海面に向けてしきりにシャッターを切っている。

いるいる。海面から濃い灰色の背中と三角の背びれを光らせてイルカたちが群れている。あちらの舟に愛想をふりまいたと思ったら、今度はこちらの舟へとやって来る。もぐったと思ったら浮かび上がって、頭の後ろの空気穴をプシューといわせる。中にはお調子者がいて、半回転ひねりジャンプをして喝采を浴びている。乗客が歓声をあげると、なおサービスをする。

たしかに餌などまったく投げることはな

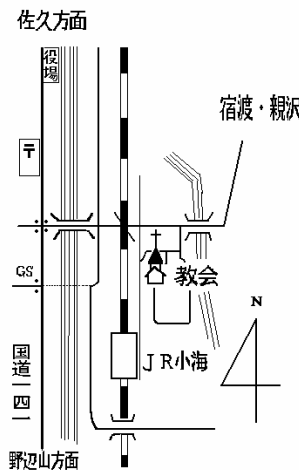
日本同盟基督教団小海キリスト教会 牧師 水草修治

会堂・牧師館 南佐久郡小海町大字小海四三三五 二七

千三八四一一二 二六七九二四七七六

〒振替005300 61683

見晴台の教会へどうぞ



集会あんない

日曜日 朝礼拝 午前十時から十一時半

夕礼拝 午後八時から九時半

*海尻・川上・南相木で毎月家庭集会あり。

*個人的な聖書勉強もできます。個人的な

ご相談にも乗ります。

い。イルカたちはまるまると肥えていて、この海が豊かな食べ物を提供していることがよくわかる。この夏に生まれたという小さな子どもイルカがかわいい。

餌という目的もないのになぜ集まるのか。イルカは、人間が好きであるらしい。拍手をされたり、写真をとってもらったり、歓声を上げられたりするのが好きなのである。いや、もしかするとイルカもヒト・ウオッチングに出かけてきているのかもしれない。地球の住民は私たち人間だけではないのだった。

「日よ。月よ。主をほめたたえよ。すべての輝く星よ。主をほめたたえよ。天の天よ。天の上にある水よ。彼らに主の名をほめたたえさせよ。主が命じて、彼らが造られた。主は彼らを、世々限りなく立てられた。

地において主をほめたたえよ。海の巨獣よ。すべての淵よ。火よ。雹よ。雪よ。煙よ。みことばを行うあらしよ。

山々よ。すべての丘よ。実のなる木よ。すべての杉よ。

獣よ。すべての家畜よ。はうものよ。翼

のある鳥よ。

地の王たちよ。すべての国民よ。君主たちよ。地のすべてのさばきづかさよ。若い男よ。若い女よ。年老いた者と幼い者よ。彼らに主の名をほめたたえさせよ。主の御名だけがあらめられ、その威光は地と天の上にあるからだ。」(詩篇一四八篇から)

創造主はご自分の作品である地球を私たちに託された。人は、これを我が物顔に収奪してきた。神の前に謙虚になって、この託された地球を大事にしたいと思った。船がそれぞれの港に帰り始めると、イルカたちが名残惜しそうに、いつまでもいつまでもついてきた。彼らも仲間なのである。

海尻で家庭集会

十月十一日(木)と二五(木)午後八時井出博彦さん宅で。 96 2534

南相木でも家庭集会

九月十九日(金)午後七時半から九時

野宿者支援感謝祭



今年も感謝祭をします。どなたもご参加ください。

日時 十一月三日(土)正午から午後2時半
会場 松原の「フィンランド村」前広場
費用 500円(会食代として)

* お米(玄米か白米)と毛布(洗濯済み)の寄付を会場で受け付けます。

△送付先▽小海キリスト教会会堂にお持ちくださるか、南牧村社協へ。

〒384-1302 南佐久郡南牧村大字海ノ口966 15 南牧村社会福祉協議会
付 山谷農場

携帯(090)1436 6334

代表 藤田寛*恐れ入りますが、着払いによる送付はご遠慮ください。荷札に「木曜午後送付希望」と、お書きください。

証し

村上義昌



私は中学二年の時まで、日本古神道や仏教を信じていました。

中学三年の時、勉強のストレス発散の為にやっていた陸上競技を引退してから、心のバランスを崩し、神経症を患い、廃人のようになっていました。中学三年の二学期まで、無遅刻、無欠席だったにもかかわらず、三学期には不登校の状態に陥り、担任から受かると言われていた志望校を二校とも滑り、失意の高校生活を送っていました。

高一高二と不登校で、留年ギリギリまで学校を休みました。

そして、「自分に生きる価値があるのか?」と思いつつ生活をしていた高二の冬に阪神大震災で被災しました。

燃え上がる街、瓦礫に埋もれる人々、遮断されたライフライン、家に押し潰されてなくなった中学の同級生……。

この震災を体験してから、私はあらゆる神の存在を否定し、「結局頼れるのは人であり、自分だけである。自分しか信用できない。」と考えるようになりました。

この震災で「死ぬ気になれば何でも出来る。」と思うようになり、今までの不登校生活を挽回すべく、新聞配達の仕事を始め、高校三年生の一年間は仕事も学校も無遅刻、無欠席を通しました。

しかし、その頑張りも一時的なものに留まり、大学を中退し、希望の無いバイト生活で心が荒れ、「神等いないのだからどんなに悪い事してもバチなどあたるものか!」「人が死んでも天国も地獄も無い。あるのは永遠の無だ。だから悪い事しても気楽だ。」などと今考えると、とんでもない事を考えていました。

追い込まれていた私は、「信頼できるものは力だけで、その点で悪の破壊力ほど力強いものは無い。悪の破壊力を建設的に利用すれば、物質的な豊かさを得る事ができ、自己欲求が満たされ、救われる。」と考えるまでになっていました。

しかし、虚しいだけの人生でした。

このような生活の果てにたどり着いたのが、現在お世話になっている博彦さん、美樹さんの職場です。

私は数年前から農業がしたく、各地で農作業を経験してきましたがほとんどの所が私を単に労働力としか見ない職場だったので、博彦さん・美樹さんのように、親身に、強く、厳しく、明るく接してくれる態度をとっても暖かく感じ、私の凍りついた心が溶ける感覚がしました。

今まで経験したことのない、優しさと強さは何処から作り出されるのか、私も博彦さんや美樹さんのように強く優しく生きたいと思うようになり、その根源がイエス様である事を知るようになりました。

その後、『パワーフォーリング』を頂いて読みました。『パワーフォーリング』を読んだ当時はまだ、神を信じておらず、罪に關して書かれていた箇所についても、「どうせ私は罪人だ。けれど、死ねば永遠に無になるのだから、別にゆるしてもらおうとも思わない。」という程度でした。

しかし、教会に通うようになり、聖書や関連書籍を読むようになってから、神の存在を

知り、今までの私の行動の全てを神様が見ていた事、自分の罪の深さがどれだけ大きなものだったかを知り深く悔い改めました。それと同時に、こんな私のために十字架という、とても辛く、重い罰を受けてくださったイエス様の愛の大きさに心から感謝しました。

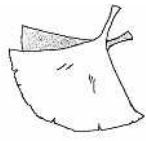
今まで普通に生活できている事を、当たり前前の事だと思い、父なる神の恵みとも知らず、今まで無視し、背を向け続けてきた、愚かな私をどうかゆるして欲しいと、ただ神様に祈るばかりでした。

今までの全ての事が、神様の導きだったという事が解り、イエス様が私の罪をゆるすために十字架に掛けられた事、イエス様こそ生ける神の御子キリストだという事を心から受け入れられると同時に私は今までの悪の虜となっていた人生から解放され、救われるという確信が与えられました。そして、これからは自分の人生を神様に委ね、お捧げし、お従いしたいと強く思うようになりました。

今の私が心に留めておきたい聖書の御言葉は「キリストの中に根ざし、また建てられ、また、教えられたとおり信仰を堅くし、あふれるばかり感謝しなさい。」(コロサイ2:2)

と、「何も煩わないで、あらゆる場合に、感謝をもってささげる祈りと願いによって、あなたがたの願い事を神に知っていただきなさい。そうすれば、人のすべての考えにまさる神の平安が、あなたがたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってくれます。」(ピリピ書四・六・七)です。

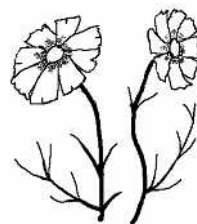
最後になりますが、私は、農業シーズンが終わるので後一ヶ月ほどでこの地を去ります。小海キリスト教会の皆様と出会い、共に祈り、共に神を讚美し、信仰心を成長させる機会を与えていただいた事を宝物とし、今後の信仰生活に繋げていきます。短い期間ではありましたが、ありがとうございました。うございました。



(注) 村上義昌さんは、南牧村のクリスチャン農家で働きつつ、ここ半年間教会に通い、このたび洗礼を受けられました。将来は、農業者を志望していらっしやいます。あかしに感動したので、許可をいただいて掲載しました。(牧師)

信州ふるさと発見フェスタ

へどうぞ



日時 十月二十七日(土)午後一時 九時

二十八日(日)午前九時 午後六時

場所 花の郷 茂来館

佐久穂町大字海瀬二五七 番地

東信濃の文化・歴史・芸術一般の紹介を行ない、地域間交流の場として、また地元を再発見する場として、信州ふるさと発見フェスタが開催されます。

教会にも声をかけていただきましたので、絵や写真など展示いたします。プレゼントも用意しておりますので、気軽にこ来場ください。